

昭和村連合青年団(上)
昭和村ボランティアガイドの会

事務局次長 倉澤 新平

村の青年組織は、その昔「壮健」や「若い衆」などと呼ばれていた。会員年齢は十五歳頃から四十歳まで、主な活動は地区内の祝儀、不祝儀、消防や治安の取り締まりなど、幅広く地域に貢献していた。文化活動では素人歌舞伎などを行い村民を楽しませた。明治になると、青年の地位向上と農業発展のための青年組織がつくられた。

その後、それらの団体が統合され「青年会」と名称も変わり、大正三年、利根郡十六町村で組織する「利根郡連合青年会」が発足した。糸之瀬、久呂保の両青年会もこの組織に加入した。当時の会員数は、糸之瀬村一五〇名、久呂保村は一七〇名いたという。主に、村の主産業である農業の発展に寄与する活動を行った。この年、第一回利根郡連合青年会運動会が開かれ、糸之瀬、久呂保両青年会も積極的に参加し交流を深めた。

昭和三年、利根郡連合青年会は「利根郡連合青年団」と改称し、糸之瀬・久呂保両青年会もそれぞれ青年団となった。青年団時

代になると、満州事変や日華事変など国家的重大事件が起こり戦時体制に入った。青年団は、女子青年団とともに出征兵・帰還兵の送迎や、出征軍人遺族への慰問、軍事思想の普及宣伝、そして防空訓練や勤労奉仕などが主な活動となっていた。

昭和十六年になると、青少年を戦争遂行に協力させるため「大日本青少年団」が結成され、各町村の青年団、女子青年団、少年団などで町村青少年団が組織された。特に青年団には軍隊につながる教育訓練がなされ、出征して戦争の犠牲になる仲間もいたが、無謀な戦争は敗戦という結末で昭和二十年に幕を閉じた。将来への希望は失われ、社会秩序も乱れ祖国と郷土は前途多難だった。これを憂う郡内の青年有志が、復興を目指して自主的に結集し、郡下各町村で青年団の組織化運動が進められた。

昭和二十年十二月に女子青年団と合体した新生糸之瀬青年団と久呂保青年団が誕生した。

そして、昭和三十三年十一月一日、糸之瀬村と久呂保村の合併による昭和村誕生とともに、両青年団も統合され「昭和村連合青年団」が誕生した。(つづく)

参考資料Ⅱ糸之瀬村誌・村誌久呂保



地域包括支援センターだより

らくらく筋トレ体操に取り組む サロンを募集しています!



らくらく筋トレ体操中!



らくらく筋トレ体操とは?

→立つ、歩く、物を取るといった日常生活で行う動作に必要な筋力や体の動きを身につけたり、保ったりするために行う体操です。



ハンドメイド活動中!

サロンとは?

→同じ地区に住んでいる人や仲の良い仲間と定期的に集まり、筋トレ体操や趣味、お茶飲みをしながら交流を深める場所です。村では32のサロンが活動しています!



サロンや筋トレ、新たなサロンの立ち上げに興味のある方はぜひお問い合わせください!



▶ 問合せ 村地域包括支援センター ☎24-5111
村社会福祉協議会 ☎20-1126

